

琉球染織に関する専門技法調査

宮城 奈々¹

I. 書籍『科学の目でみる琉球王国の色とその色材～国宝・琉球国王尚家伝世品をはじめとする琉球・沖縄の染織品を中心に～』について

1) 書籍発刊の目的

令和6年1月15日に発刊された『科学の目でみる琉球王国の色とその色材～国宝・琉球国王尚家伝世品をはじめとする琉球・沖縄の染織品を中心に～』(写真-1)は、琉球・沖縄の染織文化財に対する科学的調査の成果を公開し、芸術文化の発展に寄与することを目的としている。

2) 編集過程と協力者

出光美術館の令和3年度出版助成を受けて、令和4年度から令和5年度にかけて、143点の科学調査対象資料の結果を整理し、原稿執筆から編集までを行った。本書の編集は、下山進氏(吉備国際大学名誉教授)監修のもと、宮里正子氏(当財団総合研究所 研究顧問/前浦添市美術館長)、下山裕子(デンマテリアル株式会社色材科学研究所)、大下浩司氏(吉備国際大学 教授)、佐々木益氏(株式会社半田九清堂 保存科学分析室)、篠原あかね氏(沖縄県立博物館・美術館 主任)、與那嶺一子氏(沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員)、宮良みゆき氏(久米島博物館 主任学芸員)の協力を得て、書籍発刊に至った。

3) 書籍の概要

沖縄県における科学調査の歴史や背景を序章で紹介し、総目録で調査対象作品143点の基本データを示している。第1章では、科学調査の分析事例を詳しく紹介し、文化財の非破壊分析法によって得られる色材や素材の情報について解説している。第2章では、調査対象作品143点の非破壊分析結果を示している。第3章では「琉球国王尚家関係資料」の美術工芸品を中心とした色材調査結果と尚家文書に登場する色材について、第4章では紅型衣裳に使用された有機染料「鬱金」の持続性(染色堅牢度)に焦点を当てた調査研究、第5章では「琉球王国文化遺産集積・再興事業」における色材調査の成果に基づく復元事業の紹介、第6章では、琉球関係染織作品における混色表現の傾向についての考察、そして末尾に全科学調査の結果一覧表、索引、表の索

¹ 一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究所 琉球文化財研究室 主任研究員

引を掲載している。

本書は、沖縄県内の主要機関に所蔵される歴史的に重要な染織文化財の非破壊色材調査の結果を一冊に集約しており、琉球・沖縄の染織文化財に使用された色材の総覧としての役割を果たすとともに、今後の染織研究や復元製作研究などに活用されることが期待される。

4) 今後の展望

科学調査の成果を活用し、未解明の近世琉球における染織品の染色技法や、有機染料の色素の耐光性に対する染色方法の解明について等の調査研究が必要である。

II. 芭蕉地衣裳資料の布地・糸に関する調査

1) 調査の目的

調査の目的は、近世琉球における役人の公式な衣服であった朝衣に織られた芭蕉糸の特性とその製法を明らかにすることにある。現存する朝衣資料の芭蕉糸は、極細で毛羽立がなく、無撚りであるという特徴を持つ。本調査では、これらの特性を持つ芭蕉糸は使用された朝衣資料と、近代に製作されたと推定される類似の糸質を有する芭蕉布の古着物資料を比較分析することを通じて、芭蕉糸の製法とその技術がどのように展開し、広がっていったかを検討する。

2) 今年度の調査

本年度の実施した調査は、本島中部の個人宅に保管される芭蕉製古着物3点(写真-2)および宮古島市総合博物館に収蔵されている黒朝衣3点(写真-3)、合計6点を対象とした。調査方法は、マイクロスコープを使用し、各資料の布地の密度(糸と糸の間隔)の測定(写真-4)(写真-5)と芭蕉糸の拡大写真(写真-6)(写真-7)を撮影し、詳細なデータ収集を行った。収集したデータは、今後の分析研究の基礎資料とする。

3) 生芭蕉繊維のウー引きワークショップの所見

生芭蕉のウー引き(繊維抽出)ワークショップに参加する機会を得た。異なる条件下で処理されたナハウーを用いて、ウー引きの実践が行われた。具体的には、3種類の処理条件が設定された。一つ目は、2週間真水に浸したナハウー、二つ目は1週間真水に浸したナハウー、そして最後にワークショップ当日に採取されたナハウーとキヤギが使用された。

実践の結果、どの繊維も引きやすく、処理条件の差による顕著な差異は観察されなかった。さらに注目した点として、生引きで得られた芭蕉繊維は、乾燥後もその白さを維持している点であった。この繊維の白さは、染色処理を施した際の色の発色に影響

響を及ぼすことが予想される。今後の調査では、この繊維の白さがどの程度長期間維持されるかについても観察を行いたい(写真-8)。

4) 今後の課題

今年度の収集データも含め、これまでに収集したデータの整理および分析を行う。さらに、生芭蕉からウー引きされた繊維との比較分析を通じて、朝衣に使用される芭蕉糸の製法に関する検討を深める予定である。



写真-1 令和6年1月15日
発刊の書籍表紙



写真-5 芭蕉製古着物



写真-6 宮古島市総合
博物館所蔵の黒朝衣



写真-7(写真-5)の布地密度



写真-8(写真-6)の布地の密
度



写真-9(写真-5)の芭蕉糸拡
大写真



写真-10(写真-6)の芭蕉糸
拡大写真



写真-11 生引きで得られた
芭蕉繊維(ナハウ)